

# JANS 若手の会 第4回関西エリア検討会 報告書

## 若手研究者による研究チームの立ち上げと研究の進め方

2025年2月22日（土）に、第4回関西エリア検討会を第1部ハイブリット（現地・オンライン）、第2部を現地開催いたしました。本検討会の目的を①講義で新しい知識を得る、②現在の研究チームの課題解決につなげることとし、2部制にて企画しました。

第1部は『有機的チームビルディング～プレイヤーからマネージャーへ～』というテーマで、講師に兵庫県立大学 地域ケア開発研究所 教授 本田順子先生をお招きし、参加者19名（現地6名、オンライン13名）で開催しました。講師の先生が経験された研究チームにおけるリーダーシップ、チームビルディング、メンタリング、資金調達、プロジェクト管理について具体例を挙げて、どのように研究マネジメントを行うと効果的であるかといった、充実した内容でした。

第2部は『研究生産性を高める工夫や自身の研究チーム立ち上げについて』のグループワークを現地参加者6名で開催しました。自己紹介、研究テーマ、現在各自が直面している研究の生産性や自身の研究チーム立ち上げの課題を共有し、本田先生よりの的確なご助言をいただきました。

### 参加者アンケートからの本検討会に学び

#### ① チームマネジメントの重要性

研究チームを効率的に運営するためには、メンバーそれぞれの得意分野を活かし、不得意な部分は補い合うことが必要であることがわかった。

#### ② 役割分担と協力の意識

すべてをリーダーが抱え込むのではなく、研究目的や信頼関係を大切にしながらも適切に役割分担を行い、チーム全体で目標達成を目指すことが重要であることがわかった。

#### ③ 自己分析と成長戦略

研究における自分の得意不得意を把握し、得意なことはアピールし、不得意なことは仲間の力を借りることで、より良いチーム（有機的）を作ることができることを理解した。

#### ④ プレイヤーからマネージャーへの転換

研究活動において、プレイヤーとしての成長だけでなく、マネージャーとしての視点を持ち、チームをまとめるスキルを身につけることが求められることが重要であることがわかった。

#### ⑤ 主体的な学習環境の構築

研究環境が整っていない場合でも、自ら外部に学びの場を求め、積極的に学会や研究チームに関わることで、成長の機会を得ることができることを学んだ。



### 関西エリア・コーディネーター

伊東由康、野寄亜矢子、

岡本留美、吉川あゆみ、

和辻雄仁、飯田恵子（文責）